

# 燃料輸送延長 閣議決定を怒りをこめて弾劾する

## 12.7 三里塚総決起を突破口に 81.3 決戦を勝利しよう!

\*\*\*\*\*

政府は十二月二日、閣議をもって、八三年十二月までの三里塚ジェット燃料暫定貨車輸送延長を強行することを決定した。

「パイプラインが完成しなくても暫定貨車輸送は三年間で終了にする」という三年前の閣議決定がいかにデタラメで無責任なものであったかということも含め、われわれは、すでに今日の閣議決定のあることを必然として受けとめ、闘いに決起してきたのであり、いよいよ現実化してきた「81・3」へ向けて、さらに体制を強化し、闘い抜くのみである。

\*\*\*\*\*

### 空港がある限り 貨車輸送問題の解決はない

この閣議決定があらためてわれわれに突きつけているものは、

第一に、三年前の閣議決定が全くデタラメであったことに象徴されるように、三里塚に空港を作るということ事体に全く正義性がなく、従って、キチンとした「計画」などあり得べくもないのだということ、

第二に、パイプラインは再度期間を区切ったとしても、永久に完成などするものではなく、仮に一時期「完成」したとしても、軟弱な地盤状態等から見て、早晚破産することは必至であり、三里塚「空港」がある限りわれわれは再度貨車輸送問題に直面するということである。

二期工事強行阻止とジェット燃料暫定貨車輸送阻止の闘いは、まさに、同じ質をもった闘いなのである。

### 35万人体制と同根の攻撃

第三に、われわれは次の点もはっきりと見ておかなければならない。

閣議終了後、運輸省に呼びつけられた国鉄・高木総裁は、暫定貨車輸送の押しつけに対し、

一、警備に必要な公安官等の経費を空港公団の負担とせよ。(短期間のジェット輸送は国鉄の利益にならない。)

二、成田新幹線用に建設した成田空港駅へ在来線の乗り入れを認めよ。

三、航空機の国内便をこれ以上増やさないことを条件に、これを受け入れた。

このことは、国鉄再建法・35万人体制を「国鉄再建の最後のチャンス」とする国鉄官僚の並々な

らぬ決意を示している。

「赤字」を脱却するために、ローカル線を切り捨て、乗務員運用合理化、検修民託化を強行しようとする国鉄当局の合理化姿勢の延長上に、はつきりと、この三里塚ジェット燃料暫定貨車輸送延長強行策動があるのだ。

### 破廉恥極まる「本部」反動分子の 敵対を粉碎しよう!

このように、三里塚二期工事と暫定貨車輸送延長強行の狙いが、国鉄再建法Ⅱ35万人体制と全く同じ、軍事大国化のための体制作り、軍事空港・総合交通体系作りとしてかけられてくる以上、われわれの闘う方向性もまた明白である。

このような中で国労は第一三〇回中央委員会(十一月二十七日二十八日)で、「スト損賠二百二億円と暫定貨車輸送延長問題をパートナーする」なる破廉恥な方針を確認したことが報道されている。

また「本部」反動分子は、第一一〇回中央委員会(十一月二十九日三十日)において、裏切者・土屋粹の「貨車輸送延長反対闘争をやってくれ」という要請に応える形で「方針には書かなかつたけれど、記者発表で方針を明らかにする」と言っている。まさに破廉恥の極みであり、合理化の水先案内人、当局の武装親衛隊として、裏切者・土屋粹等の存在を口実に、勤労千葉の「81・3闘争」に敵対してくる底意はミエミエであり、勤労千葉が組織の存亡をかけて闘い抜いてきた三里塚ジェット闘争の正義性は、いまやますます明白である。

第四回定期大会で確立した方針をもって、「12・7三里塚現地集会」への総決起を皮切りに、この極反動閣議決定粉碎・「81・3」闘争勝利へ、総力をあげて闘い抜いてゆこう。

## 12.7 ミエミエに延長阻止・勤労千葉支援現地集会

全方結集